

令和元年度(平成 31 年度)
事業報告書

社会福祉法人 洛北わらべ会
洛北幼稚園

1.法人運営

(1)年度まとめ

天皇陛下即位に伴い 5 月に元号が平成から令和となり、当初から新しい時代を予感すると同時に、我が国が憲法の下、民主的法治国家である事を改めて意識した年度となった。社会福祉法人法に基づく本部運営について定期的な理事会・評議員会開催の中で、的確な助言・指導を得つつ、意見を取り入れながら法人運営と施設運営を行えた。また元町学区社会福祉協議会、元町小学校、民生児童委員をはじめとした地域役員の方々、北区役所、北消防、北警察、洛北幼児園保護者会、広く地域とも連携しながら例年と変わらない安定した法人及び施設運営ができたことをまずは報告したい。

一方で 5 月に大津市・大萱の園児を巻き込んだ交通事故、川崎市での小学児童殺傷事件と立て続き発生、更に 7 月には伏見区・桃山で発生した京都アニメーション放火事件と凄惨な出来事が重なった。更には台風 15 号及び 19 号による被害が千葉県東部に集中し、国内の一部はこの年度も自然災害脅威に晒された年となった。対策は異なるが、いずれも子どもの安全に直接関わる出来事である。前者は全国的な規模で園児・児童の安全確保のための危険個所の洗い出しが行われるきっかけとなり、元町学区も対策に迫られた。

洛北幼児園は、市政協力委員会への出席と発言を求められ、その後、元町小学校、市土木事務所、府警、区街づくり推進課と連携を取り、安全確保の取組を行った。当園においては不審者対策について既にオートロックの導入や、防犯カメラの設置など、一定の取組ができており、京都アニメーションのような出来事が起こるとは考えにくい、いずれにしても想定が困難なケースでの子どもの安全確保の難しさを痛感する出来事が続いた印象を残した。

また、近隣法人から所有権侵害妨害除去請求との調停申立てを受け、この対応にも翻弄された。これは事実に基づかない制度を使った金銭の要求となっており、対応に苦慮しているが年度を跨いで未だ決着をみていない。

保育所運営に関して、改正子ども・子育て支援法が 10 月 1 日に施行され、3 才児以上の保育無償化が制度化された。特段記載すべき大きな混乱なく移行が進み、保護者の反応も上々である印象を持った。但し 3 才児以上の給食費を園が徴収する事となったため、令和 2 年度から当園では初の口座引落としによる保護者からの徴収準備を半年間掛けて行った。

その他、課題の一つに人材確保の厳しさが継続してある。この影響で平成 31 年度は、一時保育の受入利用者数が例年の半分程度まで落ち込み、収支にまで影響が出た。一方で、別の継続課題では少子化が進行し北区内、他施設の定員割れに現れ始めており、今後、人員余剰が課題とならないかとの指摘もあり転換期に差し掛かっている可能性がある。それを踏まえた質を担保した今後の人材確保に取り組んでいきたい。

また中国・武漢で発見された新種感染症(COVID-19)が年度末に掛けて日本社会に大きく影響を与えた。施設ではこれ以前にも既に多くの感染症対策を行っていたが、施設が取れる感染拡大防止策を陵駕した世界的規模の影響が出ており、3 月 5 日京都市は保護者に対し、子どもが過ごす施設への利用自粛要請を発出した。その後 3 月 11 日には、WHO (世界保健機関) が COVID-19 をパンデミック (世界的大流行) に相当すると発表。国が諸国に対し渡航制限や入国制限を出し検疫を行う事態となっている。北区内でもクラスターが発生するなど緊張が高まり、子どもの登園自粛が相次ぎ、一時保育も実質休止、規模を縮小した卒園式など、過去に経験した事がない形で保育に影響した。感染症が社会全体に影響を与えたまま年度を跨ぐ事になったが、当園を含む市内の民間保育所でのクラスター発生が無かった点は、奇跡的だが決して偶然ではなく、高く評価してよいと思われる。

最後に基幹ステーション施設となり 3 年目である点、女性活躍促進法に基づく一般事業主行動計画の策定を行った点を付記する。

(2)代表理事の業務執行状況

入園式、運動会、発表会、作品展などの行事への参列のほか、日常業務の課題について施設長からの定期的に報告・連絡・相談を受け、課題の把握を行った。(1)で記述した調停への出席も行っている。また理事会の招集、参加及び議長職を通じ、法人運営に関わった。

2.保育所運営

(1) 所 在 地：京都市北区小山西元町 39

(2) 定 員：90 名

(3) 全体的な計画：平成 31 年度版の作成

(4) 保 育 内 容：

大人の指示を待つ子、自信の無さが表情に表れている子などの姿を受け、「主体的に活動できる子どもに育つ」を特に意識した。安心できる場所、人の下で好きなことを見つけそこから活動が広がっていくと考え保育目標を「好きを見つけよう」とした。一人一人の思いにしっかりと寄り添い、応答的な対応に意識を置くことのできた一年だったと感じた。現状でのできる限りの工夫は行ってきたが、保育士不足を感じた。

前年度に続き、リズム運動、体育遊びを通して体幹づくりを意識して行った。傷害報告から怪我の種類や部位、発生個所、時間帯など大きな変化は見られない。件数の増加は認められず、継続して取り組んでいく。

保護者とも懇談会、行事等を通して乳幼児期に大切なこと、園で大切にしていることを伝え、共有できた。家庭状況を理解し、引き続き伝え共有していく。

令和 2 年度は、コロナ感染症の影響を受けると考えられるので、職員間だけでなく保護者とのコミュニケーションを丁寧に行うように意識していきたい。

(5) 利用希望者見学案内：入園希望 57 組(昨年度比 13 組減)、一時保育 80 組(昨年度比 7 組減)

(6) 在籍児童数：月別集計

平成 31 年度		月												合計
在籍児童数(才児)		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
	0	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
	1	13	14	14	14	14	14	14	14	14	15	15	15	170
	2	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
	3	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	4	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	228
	5	12	12	12	12	12	13	13	13	12	12	12	12	147
	合計	89	90	90	90	90	91	91	91	90	91	91	91	1085

(7) 給 食：

- ・実 施 日 数：完全実施 (287 日)
- ・乳児提供数：9,475 食，幼児提供数：12,105 食，職員提供数：5,540 食
- ・一時保育数：1,022 食
- ・食べ物アレルギー児に対する除去食の提供，乳児への離乳食の提供

(8) 障害児統合保育対策：関係機関との連携

(9) 家庭との連携：

- ・園便り及び献立表の発行：1回/月
- ・懇談会の開催：全体会4回，個別1回（乳児クラス、年長児）
- ・クラス便りの発行：3回/年
- ・作品展冊子制作
- ・食育便りの発行：4回/年
- ・その他の発行物：感染症の病名と登園届，台風接近に伴う保育園業務の体制など
- ・就学支援シート

(10) 途中入退園者：入園 4名，退園 2名

退園理由：転居 2(子育て世帯の市外流出)

3. 地域子育て基幹ステーション事業

- (1) 基幹ステーション会議参画
- (2) 施設開放行事：にこにこガーデンの開催 12回/年(内、感染症対策で1回中止)
- (3) 子育て講座：親子参加型イベント，講師の先生による子育て講座ほか。
- (4) 機関紙の発行：地域向け子育て支援機関紙『ゆりかもめ』3回/年の発行。
- (5) 派遣事業：委託を受けた事業への保育士派遣。
出前保育(植物園)，ひよこクラブ，すくすく広場子育て支援等

4. 地域貢献

- (1) 職業体験：中学生チャレンジ体験の受入れ(1校，3名)
- (2) 敬老の集い：子どもたちが鳳徳デイケアセンターへ行き、交流した。
- (3) 小学校行事への参加：元町小学校ジョイントコンサートへの参加。学芸会見学。他多数
- (4) 実習生の受入：保育士養成校から実習生の受入れ(3名)
- (5) ボランティアの受入：大谷大学学生の受入れ(6名)，ノートルダム女子大学(2名)
- (6) 北区保育園こども文化フェスティバルへの参加(年長)，京都市保育園連盟主催『保育フェスタ』への協力
- (7) 関係各庁からの要請に対する協力
京都府：京都府教育委員会，図書館等連絡協議会，森の京都博実行委員会，農林水産部等
京都市：子ども若者はぐくみ局，保健福祉局，教育委員会，行財政局，総合企画局，消防局，
都市計画局，文化市民局，環境政策局，総合支援学校，京都市ひとり親家庭支援センター，図書館，等
協会・団体：子育て支援総合センター，京都市住宅供給公社，京都市防災協会，青少年科学センター，教育美術振興会，京都マラソン実行委員会，京都市環境保全活動推進協会，共同募金会，等

5. 職員

- (1) 構成：施設長 1, 主任保育士 1, 保育士 19, 管理栄養士 1, 栄養士 3, 事務員 1
- (2) 処遇：常勤 18, 非常勤 3, パート 5, 職員処遇改善 I, 処遇改善 II
- (3) 研修：職場外研修参加回数(施設長 2回，保育士 100回，調理従事者 18回)
- (4) 社会保険年金等：雇用保険，健康保険，厚生福利，任意保険，退職金共済，健診 1回/年
- (5) 採用：京都市保育園連盟主催：就職フェア出展(6月，9月)
保育士 2人の採用を決定。

6. 施設整備

- ・自主点検
- ・windows7 サービス終了に伴う 10 への移行
- ・会計ソフトの施設内 LAN 化
- ・微細な修繕、改修工事、洗管作業
- ・消防設備業者による点検実施(年 1 回)、
- ・電気設備業者による点検実施(2 ヶ月に 1 回)
- ・リフト業者による点検実施(1 回/年)

7. 危機管理

- (1) 消 防 計 画：年度当初に消防計画を立て、北消防署立会い指導を含め避難訓練を行い、また災害に対応できる体制づくり
避難・消火訓練(月 1 回)、断水・停電災害訓練(各年 1 回)、消防署立会い避難訓練(年 1 回)、救急救命講習(年 1 回)
- (2) 安 全 活 動：テーマを決めた 11 回/年の安全防犯活動
- (3) 事故防止等のためのビデオカメラ稼働。
- (4) 不審者対策及び脱走対策としてオートロックシステムの運用。

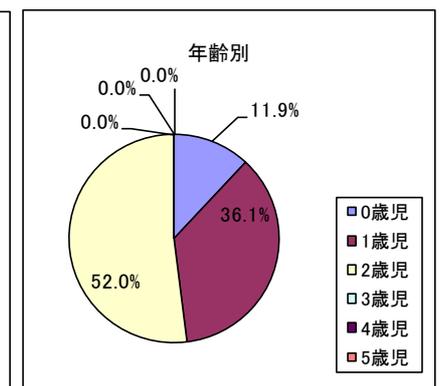
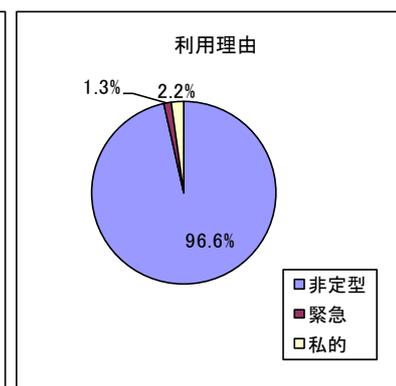
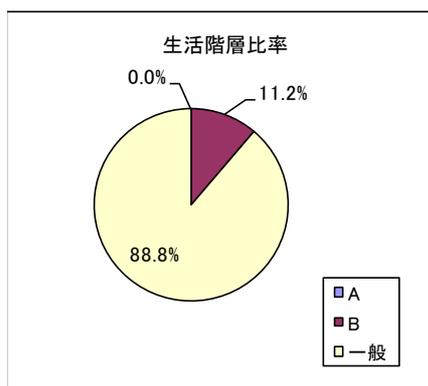
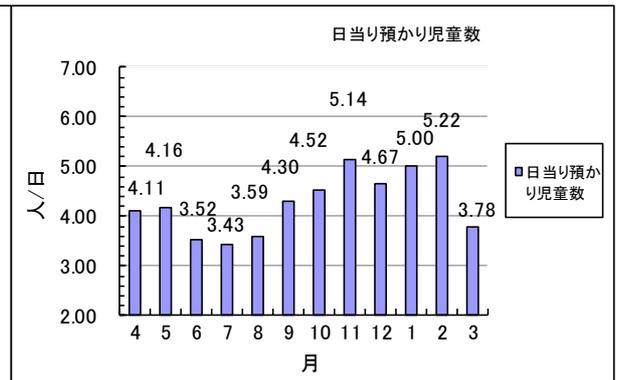
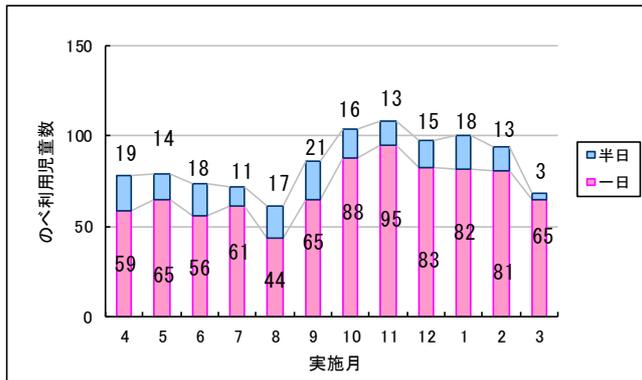
8.一時保育(預かり)事業

- (1) 事業内容：職員は常勤1名非常勤1名、1日概ね6人を限度に受入れ、一時的な保育を行った。
- (2) 実施日数：238日(前年度比-19)
- (3) のべ利用児童数：1,016人(前年度比-934人)
- (4) 預かり時間：4時間176人、8時間840人
- (5) 預かり比率：乳児100.0%、幼児0.0%
- (6) 入園者：一時保育利用者から令和2年4月までに入園した児童の数：2人

令和元年度

一時保育事業報告書

	実施 日数	利用 児童 数	のべ 利用 児童 数	日当り 預り 児童 数	預り時間				生活階層						利用理由			利用料 収入
					4時間		8時間		A		B		一般		非定 型	緊急	私的	
					3才未	3才上	3才未	3才上	3才未	3才上	3才未	3才上	3才未	3才上				
合計	238	223	1022	4.29	178	0	844	0	0	0	114	0	908	0	987	13	22	1,813,050
前期	117	99	450	3.85	100	0	350	0	0	0	52	0	398	0	444	0	6	772,400
後期	121	124	572	4.73	78	0	494	0	0	0	62	0	510	0	543	13	16	1,040,650
4月	19	17	78	4.11	19	0	59	0	0	0	6	0	72	0	78	0	0	136,050
5月	19	16	79	4.16	14	0	65	0	0	0	10	0	69	0	79	0	0	138,200
6月	21	14	74	3.52	18	0	56	0	0	0	11	0	63	0	74	0	0	122,200
7月	21	16	72	3.43	11	0	61	0	0	0	10	0	62	0	72	0	0	126,650
8月	17	18	61	3.59	17	0	44	0	0	0	9	0	52	0	58	0	3	98,550
9月	20	18	86	4.30	21	0	65	0	0	0	6	0	80	0	83	0	3	150,750
10月	23	22	104	4.52	16	0	88	0	0	0	7	0	97	0	100	0	4	193,150
11月	21	21	108	5.14	13	0	95	0	0	0	14	0	94	0	107	0	1	194,950
12月	21	19	98	4.67	15	0	83	0	0	0	13	0	85	0	98	0	0	174,450
1月	20	21	100	5.00	18	0	82	0	0	0	9	0	91	0	97	0	3	179,400
2月	18	25	94	5.22	13	0	81	0	0	0	9	0	85	0	82	7	5	172,050
3月	18	16	68	3.78	3	0	65	0	0	0	10	0	58	0	59	6	3	126,650



9. 外部監査

公認会計士事務所に業務委託を行い、税理士による外部監査を行った。

10. 要望・苦情等に関する相談窓口

園長及び主任保育士が窓口となり対応。また第三者委員として顧問社労士があたった。

11. 情報公開

保育園のホームページを運営し、施設の概要、保育内容、一時保育利用状況ほか、利用者向け周知を行った。

園ホームページにて現況報告書及び決算書の公表。